

DISCUSSION PAPER SERIES

2018-01

宗教性が医療者の職業上の満足度・達成度や
感情労働に及ぼす影響分析

熊澤利和・森田稔・郷堀ヨゼフ

November 15, 2018

Discussion Papers can be downloaded:

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/dp/dp18-01>

宗教性が医療者の職業上の満足度・達成度や感情労働に及ぼす影響分析

Analytical Study on Influence of Religious Consciousness on Occupational Satisfaction, Level of Achievement, and Emotional Labor of Health Care Professionals

熊澤利和(KUMAZAWA, T)⁺・森田稔(MORITA, Minoru)^{*}・郷堀ヨゼフ(GOHORI, Josef)[‡]

1. はじめに

今日、悪性新生物の治療・症状に伴う緩和ケアは当然のことだが、癌以外の心不全、神経難病、認知症等、多くの疾患に伴う患者の心身の痛みを和らげる緩和ケアの重要性が高まってきている。緩和ケアは、患者の痛みとして「身体的苦痛」、「社会的苦痛」、「精神的苦痛」、「スピリチュアルペイン」の4つに着目する。そして、「スピリチュアルペイン」に対して、スピリチュアルケア師、ビハラー僧や臨床宗教師などによる宗教的素養をもった人々が、実際の緩和ケア病棟等において傾聴を中心とした支援を行っている。

こうした宗教的素養をもつ人々の存在は、終末期の患者の心の安らぎだけでなく、患者の最期を看取る機会がある医師や看護師をはじめに医療・介護専門職にも何らかの影響をもたらしていると考えられる。

本稿の目的は、医療者（本稿では、医師と看護師とする）の仕事上の満足度・達成度と感情労働に対して宗教的要素がどのような影響をもたらしているのかを、統計的手法を用いて明らかにすることである。分析では、医療と宗教性に関する課題を把握するために計画されたアンケート調査から得たデータを用いて、回帰分析を行った。ただし、分析に用いたデータのサンプルについて以下の2つの点について留意する必要がある。1つ目として、サンプル・サイズが小さいことが挙げられる。今回の調査は、今後の大規模調査に向けたプレテストとして実施されたものであるためである。2つ目としては、回答者に宗教性に関するバイアスがある可能性が高いことが挙げられる。本調査は、「日本仏教看護・ビハラー学会」の2018年全国大会の参加者を対象に実施されたものである。そのため、一般の人々に比べ、宗教者、または宗教と医療に関心が高い人々であることが予想される。よって以上の留意点から、本稿での分析結果は日本全体を説明するものではない点に注意する必要がある。

本稿の構成は以下の通りである。2節ではアンケート調査の方法とデータの概要を説明する。3節では分析手法と分析結果を明らかにし、4節でまとめと今後の課題について述べる。

⁺ 高崎経済大学・地域政策学部 教授

^{*} 高崎経済大学・地域政策学部 准教授

[‡] 淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所 准教授

2. 調査方法とデータの概要

2.1 アンケート調査の概要：

分析に用いるアンケート調査は、「日本仏教看護・ビハーラ学会」の2018年全国大会の参加者を対象に、2018年8月24日から26日の期間に実施された。同調査に回答した人は56人である。

回答者の職業については、56人の回答者のうち53人からの回答が得られ、看護師(21人)、教員・教諭(12人)、医師(6人)、介護福祉士(4人)、宗教者(2人)、その他(8人)となっている。ただし、「その他」と回答した方には現役の高校生が1人含まれている。そのため、本稿の分析では「宗教者」あるいは「高校生」と回答した人については、データセットから取り除いた上で、分析を行った。

2.2 データの概要：

まず、「仕事に対する満足度」と「仕事の中での達成度」に関する回答結果についてみる。表1はそれぞれの回答結果をまとめたものである。「仕事に対する満足度」の平均値は7.1であり、「仕事の中での達成度」の平均値は6.4であった。これら結果は、日本全体に見ても高い値となっている。

表1：職務上の満足度に関する回答結果

	仕事に対する満足度		仕事の中での達成度	
	Freq.	(%)	Freq.	(%)
0(非常に不満)	0	0.0	0	0.0
1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	1	2.0
3	3	6.0	3	6.0
4	3	6.0	3	6.0
5	2	4.0	8	16.0
6	8	16.0	10	20.0
7	12	24.0	9	18.0
8	10	20.0	11	22.0
9	8	16.0	5	10.0
10(大変に満足)	4	8.0	0	0.0
Total	50	100.0	50	100.0

次に「感情労働」の程度に関する回答結果についてみる。表2は回答結果をまとめたものである。感情労働に対して「大いにある」または「ある」と回答した人は58%であった。一方、感情労働に対して「あまりない」または「ない(わからない」と回答した人も含む」と回答した人は42%であった。

表 2：感情労働に関する回答結果

	感情労働の程度	
	Freq.	(%)
ない (=1)	4	8.0
あまりない (=2)	17	34.0
ある (=3)	21	42.0
大いにある (=4)	8	16.0
Total	50	100.0

アンケート調査では、宗教に関連する設問として 4 つの質問を行った。表 3 は、各設問内容とそれぞれの回答結果をまとめたものである。1 つ目の「信仰している宗教の有無」については、回答者の 63.5%が「はい」と回答する結果となった。これは、今回の回答者が宗教に関心の高い人々であり、今後の分析結果を解釈する上でも留意する必要があることを示している。残りの設問については、1 つ目の設問に比べ宗教性の低いものとなっている。3 つの設問すべてにおいて、7 割から 9 割の回答者が「信じている」と回答した。

表 3：宗教に関する回答結果

	Freq.	(%)	
		はい	いいえ
信仰している宗教の有無	52	63.5	36.5
「死後の世界の存在」を信じる	51	80.4	19.6
「人知を超えた存在が必要」と信じる	51	90.2	9.8
「輪廻転生」を信じる	49	71.4	28.6

表 4：職業・個人属性に関する回答結果

	Obs	Mean	Std. Dev.	Min	Max
医療者ダミー	50	0.54	0.50	0	1
経過年数(職種)	47	2.62	1.01	1	4
正規雇用ダミー	52	0.63	0.49	0	1
女性ダミー	53	0.70	0.46	0	1
既婚(有配偶)ダミー	53	0.55	0.50	0	1
学歴ダミー	53	3.96	1.30	1	5
所得ダミー	49	2.86	1.38	1	5

表 4 は、次節での分析において人々の様々な属性（職業と個人に関するもの）をコントロールするために用いた変数の記述統計量が示されている。「医療者ダミー」については、現在の勤務されている主たる職業が「医師」あるいは「看護師」と回答した人は 1 を、その他を回答した人は 0 の値をとる変数である。「職種についてからの経過年数」については、「10 年未満」（14.9%）、「10-20 年未満」（31.9%）、「20-30 年未満」（29.8%）、「30 年以上」（23.4%）のダミー変数となっている。「学歴ダミー」については、「高等学校卒」（5.7%）、「専門学校卒」（13.2%）、「短期大学卒」（11.3%）、「大学卒」（18.9%）、「大学院卒」（50.9%）のダミー変数となっている。所得ダミーについては、「300 万円未満」（18.4%）、「300-500 万円未満」（30.6%）、「500-700 万円未満」（14.3%）、「700-1000 万円未満」（20.4%）、「1000 万円以上」（16.3%）のダミー変数となっている。学歴ダミーと所得ダミーについて、今回の回答結果は「高学歴」かつ「高収入」な人々が相対的に多く、この点についても次節での分析結果を解釈する上で留意する必要があると考えられる。

3. 分析結果

本稿では、医療者（看護師と医師）の職務上の満足度と感情労働に対して宗教的要素がどのような影響をもたらしているのかを、回帰分析を行った。通常、応用マイクロ計量経済学では、「幸福度関数」を推定する際、被説明変数である幸福度（あるいは満足度）がスケール（0 から 10 のスケール）で測定された離散変数であるため順序プロビット・モデルか順序ロジット・モデルが用いられる（Frey, 2008）¹⁾。しかし本稿では、サンプル・サイズが小さいため、最小二乗法による推定を行った。よって、本稿での推定結果の係数の値は、影響の関係性のみを評価し、限界効果については評価できていない点に注意する必要がある。

分析を行う前に、信仰している宗教の有無や宗教性に関連した設問の回答結果（「信じる」または「信じない」）によって、回答者の仕事上の満足度・達成度や感情労働の程度に差があるかを T 検定によって確認を行った。T 検定の結果、「仕事の中での達成度」について、信仰する宗教が「ある」と「ない」との間で、統計的に有意な結果（ $p < 0.05$ ）が得られた。

回帰分析では、被説明変数には「仕事に対する満足度」、「仕事の中での達成度」、「感情労働の程度」のそれぞれを用いた。説明変数としては、i) 宗教性に関する変数（「信仰する宗教の有無」、「死後の世界の存在を信じる」、「人知を超えた存在が必要と信じる」、「輪廻転生を信じる」）、ii) 職業に関する変数（「医療者ダミー」、「職業についての経過年数」、「正規雇用ダミー」）、iii) 個人属性に関する変数（「女性ダミー」、「既婚ダミー」、「学歴ダミー」、「所得ダミー」）を用いた。

表 5-1 : 「仕事に対する満足度」の結果

	Coef.	Robust Std. Err.	Coef.	Robust Std. Err.
信仰する宗教 の有無	0.45	0.53	-0.01	0.93
交差項①			0.82	1.33
Num of obs	44			
死後の世界の存在 を信じる	1.02	0.68	2.67	1.27
交差項②			-2.68	1.48 *
Num of obs	43			
人知を超えた存在 が必要と信じる	-0.14	0.55	-0.47	0.84
交差項③			0.51	1.10
Num of obs	44			
輪廻転生を信じる	0.15	0.61	-0.22	1.18
交差項④			0.69	1.30
Num of obs	42			

注1) 各項目における「交差項」は、各宗教性を示す変数と「医療者ダミー」を掛け合わせたものである。

注2) ***は $p < 0.01$ 、**は $p < 0.05$ 、*は $p < 0.1$ を意味している。

注3) 宗教性に関する変数と交差項以外の変数の結果については、割愛されている。

表 5-1 は、被説明変数として「仕事に対する満足度」を用いた場合の分析結果がまとめられている。この表より、「医療者であり」かつ「死後の世界の存在を信じる」人（交差項②）は、そうでない回答者に比べ、仕事上の満足度が低くなる傾向がある結果となった。この結果からのみで考察することは、難しいが、仮に、援助を行うことによって、患者や家族からプラスのストロークを得られることもある場合もあるが、一方、患者や家族から医療者への心ない言葉によって苦しむことも多いと考える。また、就業先が、宗教的背景のある施設であるか、今回のアンケートでは確認をしていない。今後の調査において、これらに関する項目も考慮しなければならないと考える。

表 5-2 : 「仕事の中での達成度」の結果

	Coef.	Robust Std. Err.	Coef.	Robust Std. Err.	
信仰する宗教 の有無	1.14	0.69	-0.15	1.17	
交差項①			2.31	1.35	*
Num of obs					44
死後の世界の存在 を信じる	-0.72	0.70	-0.88	0.79	
交差項②			0.27	1.08	
Num of obs					43
人知を超えた存在 が必要と信じる	0.37	1.16	1.88	2.30	
交差項③			-2.30	2.51	
Num of obs					44
輪廻転生を信じる	-0.28	0.69	-0.88	1.32	
交差項④			1.09	1.73	
Num of obs					42

注1) 各項目における「交差項」は、各宗教性を示す変数と「医療者ダミー」を掛け合わせたものである。

注2) ***は $p < 0.01$ 、**は $p < 0.05$ 、*は $p < 0.1$ を意味している。

注3) 宗教性に関する変数と交差項以外の変数の結果については、割愛されている。

表 5-2 は、被説明変数として「仕事の中での達成度」を用いた場合の分析結果がまとめられている。この表より、「医療者であり」かつ「信仰する宗教がある」人（交差項①）は、そうでない回答者に比べ、仕事の中での達成度が高くなる傾向がある結果となった。ここで示された結果は、「単に信仰によって仕事上の達成度が高くなるのか」、「信仰の意識化の背景に別の要因があり、分析では捉えられていない要因が仕事上の達成に影響を与えているのか」、あるいは両者が影響しているのか、判断することができない。

表 5-3 : 「感情労働の程度」の結果

	Coef.	Robust Std. Err.	Coef.	Robust Std. Err.
信仰する宗教 の有無	0.07	0.30	-0.10	0.46
交差項①			0.30	0.67
Num of obs	44			
死後の世界の存在 を信じる	0.47	0.33	0.48	0.45
交差項②			-0.01	0.70
Num of obs	43			
人知を超えた存在 が必要と信じる	-0.23	0.38	0.49	0.51
交差項③			-1.10	0.60 *
Num of obs	44			
輪廻転生を信じる	0.21	0.42	0.40	0.48
交差項④			-0.35	0.69
Num of obs	42			

注1) 各項目における「交差項」は、各宗教性を示す変数と「医療者ダミー」を掛け合わせたものである。

注2) ***は $p < 0.01$ 、**は $p < 0.05$ 、*は $p < 0.1$ を意味している。

注3) 宗教性に関する変数と交差項以外の変数の結果については、割愛されている。

表 5-3 は、被説明変数として「感情労働の程度」を用いた場合の分析結果がまとめられている。この表より、「医療者であり」かつ「人知を超えた存在が必要と信じる」人（交差項③）は、そうでない回答者に比べ、感情労働の程度が低下する傾向がある結果となった。この結果については以下の解釈が可能である。「人知を超えた存在が必要」と信じる人は、「人の生き死には、医学だけでなく、人間にはどうしてもできないことがある」ことを自覚している人と考えることができる。その場合、こうした自覚をもった医療者は「人知を超えた存在」にすぎることとなり、その結果としてストレスを軽減する方向に寄与する可能性があると考えた。こうした可能性が、今回の分析結果からも示せたものといえる。

4. まとめと今後の課題

本稿では、医療者（看護師と医師）の仕事上の満足度・達成度と感情労働に対して宗教的要素（「信仰する宗教の有無」、「死後の世界の存在を信じる」、「人知を超えた存在が必要と信じる」、「輪廻転生を信じる」）がどのような影響をもたらしているのかを、データを用いて検証した。

検証の結果、以下の3つの点が明らかになった。1つ目は、「医療者」かつ「死後の世界の存在を信じる」人は、そうでない人に比べ、仕事上の満足度が低くなる傾向があることである。2つ目は、「医療者」かつ「信仰する宗教がある」人は、そうでない人に比べ、仕事の中での達成度が高くなる傾向があることである。3つ目は、「医療者」かつ「人知を超えた存在が必要と信じる」人は、そうでない人に比べ、感情労働の程度が低くなる傾向があることである。

これら結果は、宗教的要素が医療者の仕事上の満足度・達成度と感情労働に影響を与えている可能性があることが示せたといえる。しかし、こうした関係性を見せかけの相関である可能性も強く否定することもできない。その理由は、日本人の無宗教という意味から考え、「信仰」と「信心」の違いを明確に捉える必要があると考える。また、現代医療に対する宗教の位置づけは、「宗教は、生命操作システムにおいて死なせるベクトルの方に取り込まれる」²⁾という指摘があり、仮に信仰の有無と満足度や達成度との関係を示すことができたとしてもそれは医療者がどのように考えているかにとどまる。つまり、宗教的要素が医療者の仕事上の満足度・達成度と感情労働の影響の有無を明らかにすることは、医療の受益者である患者や家族の便益に繋がることを前提に考えていることである。言い換えるならば、国民が望む「よい医療」と言えるのかまで射程に入れ考えるべきである。そのため今後の研究では、日本全体での大規模調査を実施する共に、より精度の高い分析手法を用いて検証していくことが求められると考える。

謝意

本研究の一部は、JSPS 科研費（16K15306）、及び「高崎経済大学研究奨励費（平成30年度）の助成を受けたものである。また、調査にご協力いただきました皆様にお礼を申し上げます。

註・参考文献：

- 1) Frey , Bruno (2008) *Happiness: A Revolution in Economics*, The MIT Press. (『幸福度をはかる経済学』白石小百合 訳, NTT 出版)
- 2) 池上彰 佐藤優他(2018) 安藤泰至「生命操作時代における『いのち』—いのちから医療と宗教を問う『宗教と生命』116 頁, 角川書店

高崎経済大学地域政策学会

370-0801 群馬県高崎市上並榎町1300

027-344-6244

c-gakkai@tcue.ac.jp

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/dp/dp18-01>